



ドライドックのひみつにせまる問題が裏面にあるよ!このパンフレットも参考にしなね!



ドライドックのひみつ

三重津海軍所跡ってなに?

三重津海軍所跡は、江戸時代の終わり頃につくられた佐賀藩の洋式海軍の拠点です。洋式海軍の教育や洋式船の修理・建造などを行っていました。日本初の実用蒸気船「凌風丸」もここでつくられました。

三重津海軍所跡は2013年に国の史跡に指定され、2015年には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産のひとつとして世界遺産に登録されました。

ドライドックってなに?

洋式船を修理するための専用の施設のこと。
三重津海軍所では「御修覆場」と呼ばれていました。

三重津海軍所跡のどのあたりにあったの?

現在、「修覆場地区」と呼んでいる場所にありました。
ここでは、洋式船を修理したり、つくったりしていました。また、船の修理に必要な部品を加工するための工場もありました。



どうしてドライドックが必要だったの?

理由① 洋式船は、それまで日本で使われていた「和船」とはくらべものにならないほど大きかった。

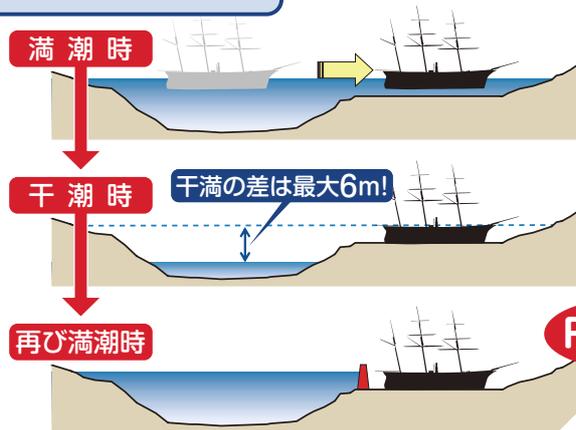
理由② 洋式船は、和船とは形が違い、和船にはない船を動かすための機械を積んでいるものもあった。

和船を修理していた場所に洋式船は入らない

洋式船は和船のように横に倒して修理ができない

それまでの場所や方法では船の修理ができず、西洋船の大きさや仕組みに合った修理施設が必要になったから。

どうやって使うの?



- ① 満潮の時、修理する船をドックの中に入れます。
- ② 干潮の時にドック内の水は自然に排出されます。
- ③ 水が入らないようにせき止めて、船の修理をします。

満潮の時にドックに船を入れると、干潮の時には潮が引いて自然とドックの中から水がなくなるんだ!

Point!

三重津海軍所では、ドックへの船の出し入れに有明海の干満差を利用していました。

三重津のひみつにせまる問題に挑戦!!

◎くらべてみよう!～西洋と三重津海軍所のドライドック～

西洋のドライドック	三重津海軍所のドライドック
<input type="text"/> <input type="text"/> 状	形 <input type="text"/> <input type="text"/> 状
<input type="text"/> や <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	材料 <input type="text"/> と <input type="text"/>
船の修理	役割 船の修理

Point!

三重津海軍所のドライドックはここがスゴイ!!

西洋の新しい技術・知識と日本の伝統的な技術を組み合わせてつくられていた!

くわしく

○佐賀藩は、洋式船の修理を行うため、ドライドックの情報を西洋から取り入れて三重津につくりました。西洋のドライドックは石やレンガでつくられますが、三重津では木と土を材料に選びました。そして、木の骨組みに土をつめるという、日本の伝統的な工事の方法を使って西洋と同じ階段状の形のドライドックをつくりあげました。

▶このように、西洋のものを日本の技術を使って再現した点が、
三重津海軍所のすごいところとして認められています。

○三重津海軍所跡のドライドックは現在、日本に残っているドライドックの中で一番古いものです。



◎確認しよう!～三重津海軍所跡のドライドック～

Q1)ドライドックってなに?

- 洋式船を修理するための施設
- 佐賀藩の和船を管理していたところ
- 三重津海軍所で飼われていた犬の名前

◎正解は… 番

Q2) どうしてドライドックがつけられたの?

- それまで使っていた船を修理する場所が壊れたから
- 新しいデザインの格好いい施設が欲しかったから
- 洋式船の大きさや仕組みに合わせた修理場所が必要だったから

◎正解は… 番

Q3)ドライドックへの船の出し入れには何を利用した?

◎有明海の の

Q4)ドライドックはどれくらいの大きさ?

◎長さ 約 メートル

◎幅 約 メートル

Q5)ドライドックがあった「修復場地区」はどこ?



◎正解は… 番